# 六義園
りくぎえん

開園　昭和 13 年（1938）10 月 16 日　　所在地　文京区本駒込 6-16-3
開園面積　87,809.41 ㎡（平成 27 年 7 月 1 日現在）

中の島



藤代峠からの眺望





紀川上



紅葉

六義園は、造園当時から小石川後楽園とともに江戸の二大庭園に数えられておりました。5 代将軍・徳川綱吉の側用人であった（後に老中、大老）柳澤吉保が、元禄８年 (1695)、駒込の地に下屋敷を拝領し、自ら設計、指揮し、平坦な武蔵野の一隅に池を掘り、山を築き、7 年の歳月をかけて「回遊式築山泉水庭園」を造り上げました。

六義園は吉保の文学的造詣の深さを反映した繊細で温和な日本庭園です。

庭園の名称は、中国の古い漢詩集である「毛詩」の「詩の六義」、すなわち風･賦･比･興･雅･頌という分類法を、紀貫之が転用した和歌の「六体」に由来します。

庭園は中の島を有する大泉水を樹林が取り囲み、紀州（現在の和歌山県）和歌の浦の景勝や和歌に詠まれた名勝の景観が八十八境として映し出されています。

明治時代に入り、岩崎弥太郎氏（三菱創設者）の所有となった六義園は、昭和 13 年（1938）に東京市に寄付されて一般公開されることになりました。昭和 28 年（1953）3 月 31 日に国の特別名勝に指定されました。

なお戦時中、東京都（東京府・東京市）の文書群の一部は、六義園の土蔵に疎開しました。疎開後、これら文書群は東京都公文書館（当時都政史料館）に所蔵されました。

画像及び文章素材提供：公益財団法人東京都公園協会